



病態栄養管理

第5講

本講座は管理栄養士課程の必須科目ですので、
頑張って学修しましょう。

注意！

この講座の複製および二次配信を禁止します。
厳守してください。

万一複製や再配布をした場合、著作権法違反になります。

炎症性腸疾患

1. 炎症性腸疾患 (Inflammatory Bowel Disease; IBD)

炎症の_____と_____を繰り返す厚生労働省特定疾患



_____ ; 再び燃える = 炎症を繰り返す

_____ ; 解きくつろぐ = 回復する

_____ and _____

完治する治療法はない

炎症性腸疾患

2. クローン病の特徴

消化管に原因不明の炎症が生じる
_____ ~ _____ が多い

_____ に好発

_____ で規則性がない

_____,
狭窄

穿孔

_____, _____

瘻孔

穴や管で他の組織とつながり、トンネル状になる

炎症性腸疾患

3. クローン病の症状

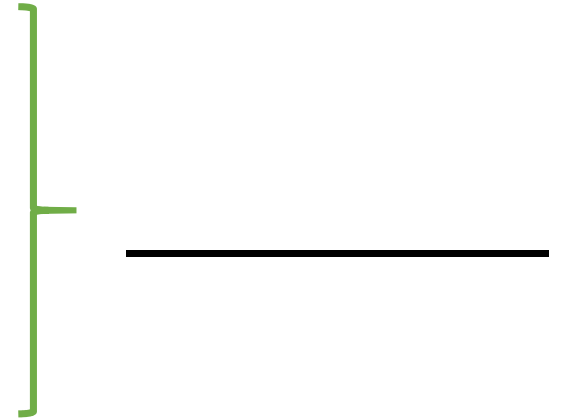
消化器症状； _____, _____, _____

腹部腫瘍

肛門病変； _____, _____



栄養素の吸収障害による _____



炎症性腸疾患

3. クローン病の症状

検査	基準値	意義
C反応性たんぱく (CRP)	~0.2mg/dL	体内に炎症があると血中に出てくる糖たんぱく。 =炎症が強いほど数値が____なるため、経過の指標、重症度の判定に利用。
白血球数 (WBC)	4,000 ~9,000/ μ L	体内に侵入した異物に反応し、排除。免疫反応の働きをつかさどっている。 =炎症が強いほど数値が高くなる。 ____の場合は、 免疫抑制効果のある薬剤の副作用 を懸念。
赤血球沈降速度 (赤沈値, ESR)	♂ 2~10mm/h ♀ 3~15mm/h	血液中の赤血球が沈む速度。炎症や壊死があると数値が____。
血小板数 (PLT)	12~41万/ μ L	血小板は止血の働きをする。 活動期では数値が____傾向。

炎症性腸疾患

3. クローン病の症状

IOIBD score	
1	腹痛
2	1日6回以上の下痢あるいは粘血便
3	肛門部病変
4	瘻孔
5	その他の合併症
6	腹部腫瘤
7	体重減少
8	38°C以上の発熱
9	腹部圧痛
10	10g/100mL以下のヘモグロビン値

1項目1点

寛解期；スコア ≤ ___ 点で
赤沈値, CRPが正常

活動期；スコア ≥ ___ 点で
赤沈値, CRPが異常

※スコア ≥ ___ 点
医療費助成の対象

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

目的； _____を防いで _____を維持

方法； _____+ _____, 外科療法（切除）



- _____
- _____
- _____
- _____

TNF- α ; 出血性の壊死を生じさせる
サイトカイン（腫瘍壊死因子）

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

栄養療法

活動期； _____ … 腸管安静のため、絶食

寛解期； _____ + PPN から徐々に経口食へ

_____ (Elemental Diet ; ED)
Fat, Proを含まない栄養剤で、ほとんど消化を必要としない
_____ を含まないので、 _____
→ _____ として含まれる

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

食事療法

寛解期； _____, _____, _____ (_____) 食

	基準量
Ene	30~35kcal/kg・IBW
Pro	1.2~1.5 g/kg・IBW
Fat	_____ %E (_____ g/day) n-3/n-6 _____ (通常n-3:n-6=__:__目標)
Vit, Min	食事摂取基準に準ずる
DF	_____ g/day

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

Fat ; _____%E (_____g/day)

通常は長期にわたっての制限は禁止

脂質エネルギー比10%未満を長期間実施すると

_____不足；生体膜が弱くなる

= _____を起こしやすくなる

_____の吸収が悪くなる（経口摂取）

ただし、**クローン病の場合は炎症・下痢抑制を優先**

※必須脂肪酸、脂溶性ビタミンはPPNに混注

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

n-3系=

ex)

n-6系=

ex)

炎症性腸疾患

4. クローン病の治療

食物繊維；炎症に対し物理的刺激になり、悪化
特に不溶性食物繊維に注意

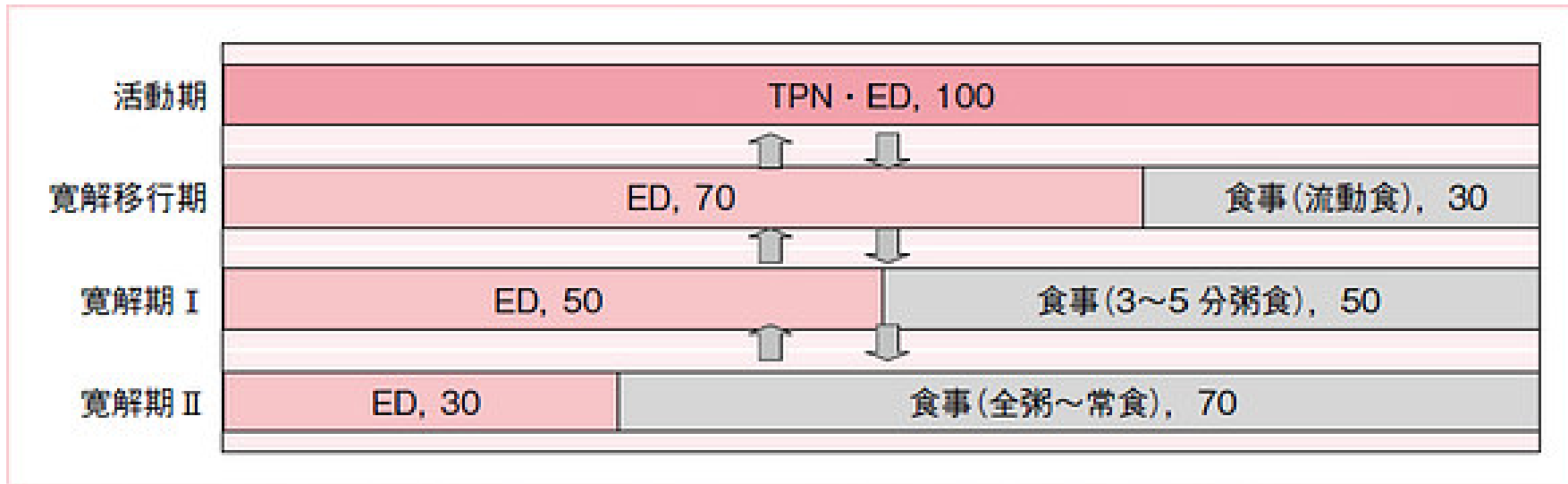


食；野菜や果物の摂取量を可能な限り減らす
350gの野菜は不要
不足するビタミンやミネラルはPPNに混注

炎症性腸疾患

4. クロウン病の治療 栄養療法

必要に応じてPPNを併用する



炎症が強い場合

図1 病勢に合わせた栄養食事管理・栄養剤の併用——栄養療法（スライド方法）の目安

PPN， ED長期投与時

_____や____， __， _____などの微量元素の欠乏に注意する